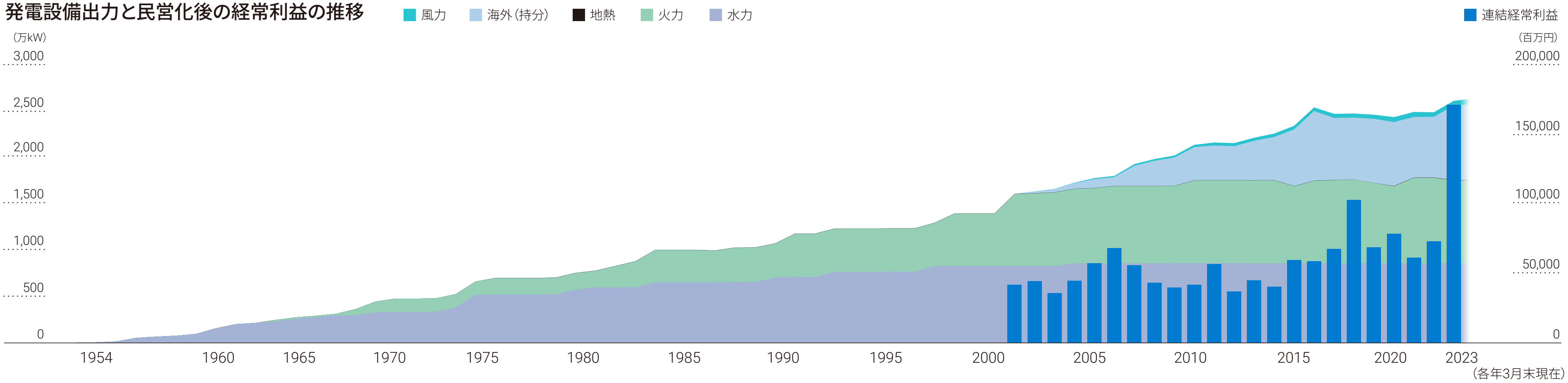
# J-POWERグループの沿革

• J-POWERグループは70年にわたり時代の電力ニーズに合わせて成長を続けています。
• 現在の電源構成はバランスの取れたポートフォリオとなっており、2050年カーボンニュートラルを目指して柔軟に対応していきます。

## 発電設備出力と民営化後の経常利益の推移




### 戦後の電力不足～高度経済成長期

**大規模水力・国内炭火力の建設**

1952年9月に設立。戦後の電力不足解決のために大規模なダム・水力発電所や送変電設備を建設しました。また、国内炭の火力発電所で高度経済成長期を支えました。

**揚水発電所や地域間連系線の整備**

ピーク需要に対応する揚水発電所や地域間を結ぶ連系設備の整備を進めました。

**海外コンサルティング事業の開始**

海外では発電所や送電線建設に関する技術支援やコンサルティング業務の実績を積み重ねていきました。

### 石油危機、環境問題への関心高まり

**海外炭火力の開発による電源の多様化**

2度のオイルショック以降、電源の多様化と安定的な資源調達ニーズが高まる中、国内初となる海外炭を用いた石炭火力発電所の建設や海外炭鉱権益の取得を行いました。

**風力発電の開発に着手**

地球環境問題への関心が高まる中、2000年には国内でいち早く大規模商用ウインドファームを稼働させ、脱炭素化の選択肢を広げていきました。

### グローバル展開・気候変動問題への対応

**民営化とグローバル展開**

2004年の完全民営化後、アジアや米国を中心に世界で発電事業を拡大し、利益成長につなげています。

**エネルギーの安定供給と気候変動対応の両立**

エネルギー供給を続けながら、2050年カーボンニュートラルへ移行するために、国内外での再生可能エネルギーのさらなる拡大、原子力発電所の建設ならびに火力発電所のゼロエミッション化などに取り組んでいます。

佐久間ダム（1956年完成）

ペルーでのコンサルティング事業（1962年）

松島火力発電所（1981年商業運転開始）

苫前ウィンビラ（2000年商業運転開始）
※更新工事中

トライトン・ノール洋上風力発電所（2022年商業運転開始）

BLUE MISSION 2050